



3 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

117
59
4

濃州倒原御陣立

羽抄青百姓驅動一件

素名表百姓強動一件

志州驅動一件

仙臺賊船之一件

淺田兄弟敵討一件

敵手一件

同上始末書

燒水

四經書

因火燒

燒書

燒水
因火燒
燒書

文政二年正月

濃州閩筒原御陣御備立

赤羽

服部氏藏



慶長立庚子年九月十五日

濃列岡原大合戰備立

此書考諸軍勢備之擣御并軍始終之事
書記也大繪圖也合見て委く令めぐらあり
一道筋すじ大筋だいすじ中仙道細ほそ在鄉道きょう有あ
一四角之内名跡書しょ宿場しゆば小利形こりがた書しょ
合あ之の篇ひ五ご村むら也

一青きよ書しょ川筋池かわすじいけの額えつあり

一白旗しらはた立た方ほう御幕ごばく東國方とうこく御幕ごばく之

一 東北嶺を立萸毛の御幕、西國方に出墾之
右軍勢へ姓名キ御備場宿迄可門合之

閑原御陳評判記

家康公御本陣跡上村え西海道南宮山麓
梶配シタマツ御陳之主爲居御旗閣而之東町
マテ御旗本、大梶代より臣、拾御竹船の
内子陳取

一 御本陣梶配之後備柳原式ア右輔康政有駕
蓋蓄於豊氏小出遠江大須賀出羽守
其外驥河遠江兵備

一 閑原西海道より南方大閑門閑明神之
邊迄福島左門太支京極後狸大峰須賀
阿波三舊堂佐渡奥平義化也

一 閑原海道より北合川山口より、幡宮の森
迄金森法印細川誠中加藤左馬之助四
兵ア少捕鐵田有樂舞

一 合川山口より三町程東山之山の主丸山トモ
新里田甲斐又ち加藤左門竹中丹後右丸
山主猿橋あり此計より松尾山西之方鎧箭
中詔言秀秋之備近道法三十卦所あり

右小山之東茨谷ト云前を徳川下野カ
井伊兵アシガ少輔陳烈ス閑魚之附カ北青

牧田海道十九尾池之野カ本因忠後陳ス
一野上村之東酒井左門生駒正俊幸譯
志乃弓山内一豊陳ス

一曾井野上間一ノ塚ハ淺野幸長陳ス

一壹井町ハ後後生野ハ池田輝政陳ス

一赤坂御宿山ハ留主居塙尾忠氏筒井定次
一大垣城押長吉村一柳直末陳ス

一曾根村津屋右京亮西尾豊後水野亮高
中村式部少輔松平丹後守マサニギ陳ス

一南宮山ハ柳金答川魚少徳永法印横井
伊織同化左門同孫左門市橋正綱陳ス

一石田治教少輔三成小國浦道之方小閑村内
篠尾ハ云前青竹之二重柵繕其内よ
銃炮長柄ハ伏丸柵ハ前秀賴公之
物貯六拾三騎陳烈ス

一小紀村鳩津兵庫政義弘同中敷大義家

一 天滿山ノ小西撫津ヲ行長同南之方ニ備前

中納言秀家此山、天滿山邊の山有

一 藤下けす大谷大字木下山城宇戸田武房守

同内記平櫻國惣同庄兵衛陳ス

森下は、中山通湯道筋閑の源川の川岸の丘五郎

一 山中に入ル宮ニ上ル大谷形家少輔吉隆四園

九カ歳内軍兵數合四万金騎ヲ不知ス

一 松尾山ニ筑前中納言秀秋陈ス

一 右吉尾ニ山鑿浦道之南今須の席ニ過

服板中敷太輔同治政ち小川土佐守同鷦鷯助

朽木河内ち布座久安陳ス

一 南宮山ノ毛利秀元吉川廣家安國寺
長束大内元長曾我教士佐陈ス

此山の小豆方山麓掘死ト玄功九月十五日陳ス

一大垣城本丸福石左馬之助二三丸熊谷
内藤之助垣見和泉守森林惣左門三三丸
高橋九郎秋月長門守相良宮内少輔郊合
至萬三千七百六拾騎箭鎧珠ス

一 石田三成家臣鳴左近同新吉蒲生備中
鳴澤閑ケ而ニ小國海道之左右ニ備立立

小西宇喜田右備之前也

一九月十五日朝小雨あり而方深くにて已刻
半天も晴る福島より手すりあ是日にて
澤井左門禪父江法麻森勘由三人ノ出ス
三城ノ年より同物見つけて乾次第處添
小三郎兩方途中にて行途

石田三成より軍使立大谷大學木下山城
戸田義高ノ同内記平塚因幡ノ同庄之瀬閣
魚小國海道ノ守門馳走ル福島備ノ
鉢炮ヲ打出ル軍始ル西國方秀高ノ三朱

義弘義家乃長乐ノ掛ル、珠炮ヲ柄ヲ継
く空合細川忠興井伊直政加藤嘉明黒田
若政鐵田有樂同長孝等兵を率ムて
和合是日小國海道ノ左右八幡宮の後ニ
一説通ル南東國三方森堂佐渡京極
高政峰源加阿波ノ至鎮本田忠勝宇喜田
鳩津ノ勢ヲ擣ル一念ノ先ニ先ニを角石有
伊豆守貞政真先ニ進ム鎌合首ヲ取ル
依ル一青首ヲ御感快ヲ給フ猪子内通
古田大膳翁五郎右門仇久間久左門同

孫六告先士進之御書勅

諸道之中、助金木林法事。同山雨雲。田中吉政
禍多矣。父子石田少西鴻臚守喜。因之物力不足。
在也。うやてお義此門年ノ上到有り。家
御馬廻了。伊丹兵庫川村助左エ。奥主義高
村越多直一。青木馬助。參入討丸出。小坂
助六安孫子善十郎。稻熊市左エ。兼松丈四
郎。坪内久右衛門長男。想多喜。次男五郎。三男
左エ。四男万郎。左エ。内谷理左エ。二女。人子
徒也。傳行了。

玄尾山金吾秀秋人教を大閻杖を南に歸
る下り大谷平塚が備之右三方掛る大谷
も秀秋の引ひ久為思ひてゐる閻ヶ石表の
宣はか爲り秀穂は還る押庄なる秀秋の
先手一騎は理ちあらば其人因申勘定の
布目剣平其升一騎萬十^ノ者芳年負
討死す猶^シ子孫板中敷^シ小川去仇也
河内吉布座久多漸貳十四日齋^シ御味
方より系由内通^シ依^リ合易^シ鶴を
揚る右四人まづ右隣元備古模合^シ討て

至る。慈堂山内京極も同時に討てる。
山中も爲替依て敵軍も大谷吉隆復
くまゆくよりよりかまく三浦喜左
支大谷が首をうそ。吉隆も惣兵は祐吉と
云沙門よ其首を渡て沙門足利義
包土中よ納戻山中義敗軍一ノ弓
左よ石田少西寧喜圓筆の後方より
軍被き即時よ最軍死し
一西國方討死え衆元田義秀ち因内記平塚
因幡國庄屋大谷吉隆鳴劔吉筆之
一大垣箭城之内相良官内備秋月長門も
高橋九郎宍井伊勢直政内通仕りの事や
垣見和泉守熊谷内務之助森惣左衛門傳
義親若て右自害ス二三丸鏡善一ノ弓
禍右馬之助和乞謀よ渡ス伊勢國朝
然被遣り云て金谷川ゑて市橋之
家來賴石立兵割云者被仰付首

を刎りる

一 関ヶ原御戰場出 東國方之 人數合而
七萬五千三百餘拾余人
一 西國方之 人數九萬三千余人之云
一 鳴津義弘之 東方之 真中伊勢勝政勝行
井伊直政本因忠徳秀尾山秀秋士
車喰留之 戦ノか鳴津中敷ノ牧田
うよノ役ノ云ノ計ノ討ノ死ス義弘弘
御ノ死ノのノ多良山のノ方ノ吾
也キ也キ

一 備前中納言秀家關ケ魚ノ粕川ノ云
谷ノ姫ノ白樺村ノ矢野ノ太閤ノ之ノ百
姓大坂エ送ノ返ノ小西ノ行長ノ粕川ノ
谷ノ公獨ノ山ノ半マテ姫ノか關ケ魚
之領主竹中丹後守ノ生捕ノ
一 石田三成ノ關ケ魚ノ江ノ伴
吹山ノ谷ノ内草壁ノ小野ノ諸侯是
すノ川合村ノ二落ノ有ノと此訴ノ
田中兵部ノ捕ノ生捕ノ

東國弓

家元

福島左門右支正則

尾河清潤
拾郎万石人

池田三九郎門

輝政

同備中守

長吉

筒井仲賀守

定次

京極後理大支宗政

三河吉田
拾郎万石人

淺野左京大支幸長

因河取鳥
六万五千石人

田中兵部大輔吉政

伴川上野
八万石人

堀尾信濃守忠氏

信乃飯田
八万石人

寺澤志摩守廣高

甲州住
二拾萬石人

細川越中守忠典

三河国岸
拾万石人

山内尉馬守一豊

遠河掛川
六万石人

有馬芸蕃豊氏

肥前唐津
拾郎万石人

義堂佐渡守高亮

肥前大淵
八万石人

加藤左馬之助喜明

福河直勝
拾万石人

中村式部少輔一忠

豊後白杵
拾一万石人

蜂須賀阿波守至鎮

遠河掛川
六万石人

黒田甲斐守長政

阿知德山
拾八万石人

生駒讚岐守正俊

豊後小倉
拾郎万石人

本田中務太輔忠勝

阿知高松
拾七万石人

上總大瀬
拾万石人

一金森法印長近

一德永法印昌時

一押監物直未

一井住兵部少輔直政

一榎原或鄒少輔康政

一市橋下總守正綱

一加藤左門尉貞泰

一奥平義作守信昌

一酒井左門尉

一徳川下野守

一鐵田有樂舟

一大須加賀出羽守

一小出遠江守

一横井伊鐵

一津惺右京亮

一西尾豊後守

一水野六左門

一松平丹後守

西國方

高澤高山

三万八千石

濃川松平

印万石

三万石

上野高崎

三万石

上野館林

三万石

高不知

三万石

濃川今尾

四万石

濃川

一毛利家相秀元

右拾六國之守糧元之養

一吉川義人廣家

一鳩津兵庫政義弘

一鳩津中敷太輔義家

一備前中納言秀家

一長曾我部宮內少輔盛親

一柳川侍從宗茂

一相良宮内少輔賴定

一秋月長門守種宗

一西櫻津守竹長

一大谷形勢大輔吉隆

一平塙因幡守為廣

一戸田牛藏守重政

一安國寺喜瓊長老

一垣見和泉守家純

一熊谷内益助直陣

豐後安喜

豐後富末

豐後安喜

同
安藝家
備中守
溫淨玉

同
伯耆玉
備後守
國淨玉

同
石見玉

一石川備後守貞清 同

尾山丈山
三万石之

一津田長門守信成 同

山岸三牧
一万三千石之

一赤座久兵衛直保 同

濃河糸木
三万三千石之

一脇坂中整太輔安治

豊後麻内
二万石三成之

一禍原左馬之助直高

筑前
二万石三成之

一南條中整大輔

新知
二万石三成之

一森惣左門

江戸朽木
一万石之

一朽木河内守利絅

福岡今治
七万石之

一小川土佐守祐忠

江戸水口
五万石之

一長束大義大輔正家

日向少總
五万石之
江戸佐和山
二十五万石之

一高橋九郎

東國人

同

一石田祐鄧少輔三成

江戸水口
五万石之

萬和之年
辛未年夏月

羽州志士
隱逸勸一仕

移居山林
而忘其子

一而有九口山口焉松平伊豆郡御成
山以相州毛利氏之主大主毛利元
景之子也之江親弟高齋佐老家店
守人名也亦加守者第之家屋折漬屋
羊百姓稱之若也山主右集也守任
石翁也合於人取之人集他領玉童村
押持之望其力也化了也山於城下町
處處之女と打躍了也山口不洞ア地乞

他領冲、赤口、石壁、柳子等城也。燭不亦役
人乎？役者為割理寒、P雪去後，一毫之累
可無。蓋石碑打樁身未枯，茅草為燒松而引
火，其事大急。之子家，居打燭人至，拂拂而
照，中之煙竟洞。入以手不燭，手而傳拿
之，竟無事。惟毛瘞而履以土，主因出塞，其日夜
不右以乘。雖以外臣絕額，玄元子流之。P而
固教法方，年高人殺引，子不望報。故曰：

仲尼弟子比他，子由以爲人殺者多，但化領
于崇山之棟，廉於集處，而殘匪散住以傍城
下，或入穴，或打燭以蒙居之。子不謂
子多而自與，亦多而自與，子不謂
前之有之，子不謂之，子不謂之，子不謂之，
不謂之，子不謂之，子不謂之，子不謂之，
子不謂之，子不謂之，子不謂之，子不謂之，

子不謂之。

初之他，子不謂之，子不謂之，

子不謂之，子不謂之，子不謂之，

一月廿日朝天者に奉申候事
松等事半解

出事の事

上在深山と御

内閣大輔事更

湯井山の所

板倉内侍

間川村百姓大洗堂は御手取時代より

は古志太淳木立左近の食名をセモリノ役
之弟アキモトヨウジノ役名を五郎左近
アキモトヨウジ初志の時此地有申立
用行打拂立志主と云ふ事有志てお九郎
前立志

別

草山城松原方と御見付申立

卷之三

清平樂
春歸元未
山中初晴

此卷中所用之墨，皆系上等佳墨，其色深沉，其质细滑，其香浓郁，其味醇厚，实为书画家之珍品。今人多以次等墨充之，殊为可惜。

July 29th 1864

卷之三

卷之三

卷之三

上身之五脉代不

主骨

主筋

其

助

而

主

大筋

筋

而

主

毛毛

化二腕

主三指

主三指

主三指

集

集

集

集

集

王御村

王御村

王御村

中自

中自

中自

中自

中自

中自

中自

中自

脚掌之筋增筋

山

山

山

山

而

而

而

而

而

化足之肩之胸之肺之長之手之

而

而

而

而

而

而

而

而

而

而

而

八月

日

某名春秋性強勁一件

文政二年

1819. 2. 29. 20. 21. 22. 23. 24.
25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34.
35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44.
45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54.
55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64.
65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74.
75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84.
85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94.
95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104.
105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114.
115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124.
125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134.
135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144.
145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154.
155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164.
165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174.
175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184.
185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194.
195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204.
205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214.
215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224.
225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234.
235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244.
245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254.
255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264.
265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274.
275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284.
285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294.
295. 296. 297. 298. 299. 299. 299. 299. 299. 299.

世宗代云山内足寔正書付中上

此五業在表之候中、御玉替重三萬石度大鹽勁
右初々乞來停殿祿付謹元ト以一拾万石之度也
六年已前古右ニ謹元付古強ハ津世謹ト唱一口三差
ノ古魯子年よ二會完古程九口數而字口古東別五
千海与唱中之経變是近滞古古努東古處今度古
玉替三付尚六月古會、古取ト古極是近百難也古急
金割庚古处村古并金古有古处古以何古沙汰古及先
鎮元淺レ小根子古是古急金充上ナ扣ニ古成ナシ、至古上而
歟ナリ村古江底價付金子古度御玉替付下古丈ナキお
仰上納五仕古不立成有古田地家錢壹代古上納三

及々 徒聖と解流ひて 玄帝代友不より備全して立瑞
外敵殺所度に敵占船廻と代友不より元立と出格別も
相違ひて 延うて 事と百姓十居全り 底屋
代友もあらかじめとて 故教え立ひて や事と十万家
之百姓を敵様に毛賛ひて ほの百姓甚是追ひ一具
かとやろく出借付し 全子えお前上網立事ひ然支官津聖
徳年全しこそ是全村にて代友と改方とあるは定安ケ
村庄屋し帳面百姓は玄揚吟咏ニ及ゆ如代友と帳面
取揚古百姓せ残石浦ニお成寧倉ヒヤ付主吏より百姓を
いはま山々谷々石筍火明松竹燒二千株三十人
大集、玄葉赤白黑也立一社一万株社ニお見えまじにす
ち不こ致五十不就完お立社ニあきよめくわ狭うむり簾と
焉アリモヨリ斧杖おほひ、山刀猿杖鷹工等
軍隊と有き者一万精を内ニ三十精完はれ所の鐵兵
若手取ト玄キ頭巾ともり大將差引ひのちより二十精
兵ニ達し於テ大村ノ某ト平鷹矢モリササ带刀ノ大身
の絆を持一弓箭と勢を絆三備を立と立は後紀七十精
を以テは其城を守り其城を守り城はくび
を守リ赤キ兵を立と赤キ兵を立と赤キ兵を立
たりものと云フ 七兵能ニ体を立一社ニ後紀大丁 完

城ニタ日よかヤミノ軍士度ニ馬自キ組右因組ニモ第九七
八万端ニお見合はる紀州織動ニ奉山城二三千端カナ
此左業名ニ百種ニシテナリ中也風聞ニ云度ニ軍昨大水アリ
船モレヒ城ト中アリ度ニ七八日モナガシ谷より村
庄モハヤモ及行者一はく已サニナム所城内ミ室御
所何モ所存モニ空也近松ニ木を引カシム多用
空き所車馬所度ニ有リ每候ニ古成居、弓波泡揚ケルニ残セ
前ニ坂軍所ケルニ不ト之作峰山より大石大木而の如
おとけ石並モアリ是モ乃所高木バ五五五近松
史ナリ町在行若林ハ春日家レ變形ニ趣軍所ケルト
兵中吹附土ト記書云々モ南壁勢ニ申大野ト一者
五十端無事取虫革ニシル百姓中上四三段ニ六七万端度
放舟シテ
又也是邊ニ余リ帝所引退モ爾
了出船中少て席ニシ居モ經去モ中谷ニ引退中モ史
ナリ蓋即用人全モハ及正經既正物民モ也リ到達一船ニヨ
而正經ニ一船弓五十分引經トモの矢ニ付スソレ泡足
式ニシテ拔身の絆を於正經近道一船ニ正經度ニ度ニ
一門又云正經弓道ニ押寄來リ付拵泡足先橋正故
所度ニ至拵泡足モ且經あひ、間ニ十人牛百枚繩
舟ヨリ拔子キナリモノ也
舟ヨリ拔子キナリモノ也

まよ東面車小より百姓勞えよりみ屋根也見縫大
鞍せ鳴式ハ竹と首拂ひる。金をもひ伏ち。押
す中は正職内を以家先一五人若敵様アリ四十石已下
子供印中年れ正敵軍席正絃足家中而
子供女舟斗り病氣焉正門のて正家中正敵正絃足作付
い丈メタ案名を左取る正功を外しくはひ作付正所武志
正絃メタ一ヶミツ正机打正宿マサシ常組ヨウジ作付正上正機毛毛
衣カツ上白シロたす車カミをうけ又をぬせまひ作付微ヒタチむの
佐太公ソタキ山支又石山軍紀ソクサンもとや町内マチナリ正車
吏シテ有アリ旅居リョウキ様ヨコ正加勢カセ原田厚タマ有アリとや
正富既アリ正被カツ有アリ陣ジンの藤堂様フジヤマヨコ士ジト正加勢
笠松代官松下内匠棟カスガシタケル西正神戸カニシマツ正多模タモ三正
正西正屋カニシマツ正外近カニシマツ正大名カニシマツ正出カニシマツ正加勢カセ多
素名町支カニシマツ正燒拂カニシマツ正成カニシマツ正と忠鬼正ト正博近
宅カニシマツ正町カニシマツ正家カニシマツ正残カニシマツ正元拂カニシマツ正作付律カニシマツ正玉聲
正弓カニシマツ正身カニシマツ正此カニシマツ正軍カニシマツ正評カニシマツ正正月カニシマツ正又

文政六年八月十一日

服部氏

志刀刃騷動一件

天怪云
羅便
也

年九
月
日
午
時
有
風
起

志方縣勅

天保二年五月

丁領地石弓合後之日承之言之有以相
傳耳馬之使乃從之云故功村仲色孤
之れ御風流水窮之御本波也村山之
所内村之名也相後日承九石九石儀
羅及之と難承之有承之子弟之
代及多羅毛勒百丸也んもんもんもん
貝子即此多承毛勒百丸也んもんもんもん
多布多母也んもんもんもんもんもん

秀別才と申す日多ん尼勅旨届け
和也向ての所用事かと聞村に而て
御内侍御方を承取る四事人名うる
名捕之役を公私に依り方より伏す
は印材に於て寺院に達する穿湯と
大通院と申す田主人を捕ふ甘風抄有
る者あり金を數上手く人致と年大釋
未除あらゆ其事とあり國及強弱可
年代と世と解るる開村にてある
門主と將軍室と乎す相生也有川家

馳走せむとへ忽チ移と又事と先
入る代其事とせむ故と云ナ歟とす何
と生死事と云ふ事内側至く其事とせ
史主と云下足性と云事人治役印材
と役多事も存り口と小人と役充
めと有方と云多事

系里人

十四人

経常人

三百六十八人

方々の事と申すうち人の経常ともの

ちくわ月廿三日正午
うきよ小川町
松平義定の印石彌林
内閣はとす事也
及難船玄太日出中
多喜方年事清上陸
主事方多喜代役多喜也
分岐事立ち坂折
梯也計馬之不善
木也付之義定也

之餘力不及後之府吏多不至也此去
久而往之則市中多有之望其事則古風
多相傳也而今人少知之而不知其故者
甚多也其不然者無他之有也其所以為
之者至船刻之使及下水之日動有之
有者半于陸而村之有者自船之多者
者對馬之半于P頭之多者無多者
動有者對馬之半于P頭之多者無多者
至半于P頭之多者無多者無多者
多者半于P頭之多者無多者無多者

和二月 村莊後序

南有大山東引邑多氣而弱氣有之然
以多雨故也至是時化多不雨村之即
年有之江河即也年水多則之去之宜
有之於沖合之致不和則之志州
亦多雨故工陸之多即之多者多者
因冲之也村之在水國多者多者
早速之而多者多者多者多者多者
之多者多者多者多者多者多者多者

さかトアリ御令三事と御方ニ志よりテ皆尔
申リ在御事列以て初方、怪文、御之たゞ人
み御被是アシテ起乃事半端因ル事
此ノ事在事、手ノある事、又方病有事多々有事
は事多々事多々事多々事多々事多々事多々事
御所モアレアリ御出セテ御事半端因ル事
手ノ事多々事多々事多々事多々事多々事多々事
事多々事多々事多々事多々事多々事多々事
事多々事多々事多々事多々事多々事多々事

翁五郎馬守

仙臺
賦船之一件

楊東陸與丁攸官杜康郡石邑邑正三司刑沖船頭
坐其旁。至是長流儀物不輕。而同為候役。以至南宮
四時。此君薄領平洋。冲公。坐知。而东主。皆不異國。蟹
艘。走。年。年。船。中。有。水。精。年。不。得。不。若。國。是。可。以。暫
時。退。更。而。改。行。航。收。一。牧。打。獵。仔。馬。初。三。被。人。殺。至。七
人。亦。去。船。小。角。諸。航。能。持。不。到。到。而。不。以。船。而。不。為。
帆。繩。之。必。仰。敵。多。手。帆。之。而。變。右。矣。而。人。不。去。而。
德。也。如。製。舟。而。不。而。之。亦。乘。之。不。而。德。重。而。
今。米。指。而。德。而。船。以。不。多。不。而。指。而。而。每。
之。船。而。不。底。也。而。之。亦。乘。之。不。而。德。重。而。

一早鳥船船頭人取景人見省心者皆亦未店船
有見人被ゆきもとて不見と見ゆるにあら失國船車
沖より走ぬ船頭を當年代て先ひゆ候也當國界
浦原入津候事有り河内一通アシタ也平野工而江
あほと通すも此を寄附を當年當國界也當國界
一泊船名曰郡門船之氣氣冲船頭既至有事也船大鋪
材木乃候其夜同日今大時以常例中、濱至
紀波今多是國船車也之船不至方幸運耳
有屬役有船候了船以船人取人船系徑以易
之船と同氣走氣寫ゆまむ也主ノ友モ精氣
矣

暫時是日大見事有事也所系船頭と大切故拿
帆引りて宿居事有事也所系小舟也候船所主の飯
とね主傳承取れ事無事不持も主事方御禁不奪ひ之
船未未有事冲より走ぬ船頭一氣に我足矣八度
足立多之船主ある種候船頭船頭事人持事也候
そ空船りて、御主事もも御前也人持事也そ空船
おはく御主事也御主事也御前也人持事也そ空船
六日浦原入津事有事也御所爲事也御也石毛本浦
里あほと同氣也當國界一通アシタ也平野工而江

前段之通引也。右古文書之疑者而可也。节文
乃其尊之名而書上所用或曰篇首之私以人言耳。

七月

曼

一疋 一面

一組五合 八

一匹許 三

一衫中綃通昌服襪 一半

一第 二品

一主紙 三筋

右卷三之取法至古多不傳。色乃其子

一隻而有之者亦非常之金 五十五

一紙八角腰光通昌服襪之入袋方合十七石

右卷四之取法至古多不傳。色乃其子

一排紙八角方合子 六支

一束

一隻而有之者亦非常之金

一枚

一懷中綃八角方合子 六支

右卷五之取法至古多不傳。色乃其子

一官印及衣服類六件

四十六

一蒲團六具

九

一懷中物箱六具

十四

布多件及布帶多條

廿四

布多件及布帶多條

廿四

天保三年七月

伊席要人

小車等
漆白木桌數張一件

文政乙辰八月王百注第百四十五

多保齋等參定

後田大助參定

後田洪元

丙子年

後田源節

丙子年十二月

左之本題清高翁之手稿也

七月侯車減額為馬取之。八月
歸侯之。侯之曰：「是吾主也。」至東陽
石浦，研集。及至，全執以相逢。
行經中，入軍。有無數百首草根
以爲火，不得尋。方無氣，乃得焉。不
知其處，車輶。每車輶，必有火，不
敢息。有見之，以爲是必有幽鬼。問
之，曰：「萬物之靈，古無日，有火者，

謂之火。其後始有火，則人皆生。
是故而生之，今亦死之。」

卷之三

七言律詩

八首

水道考

金匱要略

漢書

養
氣
萬
物
皆
有
生
死
之
理
而
無
不
可
愛
者
故
人
之
生
死
亦
猶
物
之
死
生
也
故
曰
天地
萬
物
之
生
死
皆
有
理
而
無
不
可
愛

蘇子瞻詩卷之二

此中人語
問之曰
此何處也
答曰
不知其名
但聞其聲
如鳴珮玉
余音不絕
此必是仙都

紅葉
秋風
蕭瑟
萬木
淒涼
孤雲
落日
悲聲
誰傳
此意
誰識
此情
誰知
此景
誰憐
此物

家國之是生之是也

主之是也實之是也觀其勢也主城
之是也皆之是也觀其勢也主城

左通於經矣。而

居八舟

南車北轍不與人合者
公蓋門左

淡田洪威

多數數故減去其多以至減去其
多過又少他之傳也之減去其多
有也。つも之傳をとての傳る事無
所傳の事無く事はなれども
大儀事事力不事事事事事事事事事
事事事事事事事事事事事事事事事

并寫于丙辰年正月廿二日
於崇山廬書於後山之隱居
在是處可得休閒之方考道于
捨別之清閑也。夫子曰：「吾一朝應
無事，三年不見，吾一日應
行之以清閑。」余亦有清閑之言矣
仰慕先君之風流，復之以中華
因之有作，少卿請以清閑之時

文政九年甲申仲夏月周易翁著
于崇山廬
口占于歲次丙辰
少卿請以清閑之時

此其聲

事列原鵠

礪牋村因稿

大里庄店長店

丙辰九月

之大敵方聞之喜甚計
有為者事竟在人爲
之不無不善以故不全焉
誠與吾一出生於萬物
迷於世間多患於疾病
其生也亦多病於疾病
於吾子也亦多病於疾病
於吾子也亦多病於疾病

左原御子の國井より
本日月を蒙る
及無令處在奉事不^ト古送至
其處月を蒙る之に因て本^トリ御名
宣ひ候事あらうと申候之故に付此
事

右

不^ト御^トすより申候事

松山不^ト御^ト清田^トはつ翁^ト等
新舊^ト是處^ト主事^トもの^ト本^ト事
有^ト候事^ト不^ト御^ト朱鷺^ト而^ト御^ト改^ト
之^ト而^ト不^ト御^ト是處^ト主事^ト本^ト事
不^ト御^ト一^ト件^ト以^ト候^ト不^ト御^ト改^ト
年二月奉^ト接^ト清田^ト月考委^ト事^ト才
前月以^ト御^ト主事^ト不^ト御^ト改^ト之^ト事
是處^ト主事^ト以^ト御^ト而^ト御^ト改^ト之^ト事

東坡居士集

大刀隊初音

ノル事奉は歎今と洋年且右を通じ
とて馬ミシタス、車先既左所モチト
肇初日役町向、在原の井居活
ムのモニ少ア取、限る峰活
左高ノ事例月、水原の井居活

五度九事例不釋以

三度九

一左耳ノリテキサ切下

一毛もあす原弓子也

一そのち右ノリテキサ切下あく方

一毛もあす下原弓子也

一竹額ノモニキサ切の古腹

一毛もあす下原弓子也

一左耳ノリテキサ切下二ノ腕ノリテキサ切下

大統

傳子家書

一
脊
大
方
精
切
正

卷之三

大
一

卷之三

左
勝
下

大守下
淳于子
正

卷之三

之

卷之三

卷之三

本場本鄉
金之本源
也

久村良成

新本屋

吉川

吉川屋

吉川屋

久村

生駒北門町

吉川

吉川

吉川

吉川

吉川

清音堂集

宋徽宗書

早熟柿

清平曲

庚辰年仲夏有志于水天閣主人筆

乙未年夏月

少卿以

蘇唐郎

登村舍

大風夜疾店宿

王叔

水天閣

布衣素履，不為人知，過津渡，遇一
老翁，持筆，題其額曰：「水天閣主人」。因
號之曰：「水天閣主人」。

吉有其志復如其事也云雖
故不以爲多言矣今既與之
才不盡其事一念而生其心
使君其事即已知其所以然
南七年以不以爲君事立
之公私也其事方
之私也故曰之公私也其
事立之公私也其事方
事立之公私也其事方
於事不以爲多言矣

林夢得説教月夜之天橋上一下道
足音有如急雨通竹籜透天衣
星月玄雲散又穿多處風
方舟有掌舟人直月也
名未至而歸故其詩多是
微子少卿皆其子也
但九重天戶以北之門
唯清中生之有

周易
通鑑
繫辭
卷之二
子思子傳
卷之三

卷之三

水鄉一束
其一
其二
其三

但使繆公繁種後
豈知子房成大業
生平不識張良計
空負高名老此身

任公之謂也
其出也
其歸也

清江先生集

國事十有二年。丙子之歲。夏四月。庚辰。日食既。

至。算。陳。唐。淮。南。內。

歸。丹。國。鐵。冠。

清。因。洪。慶。

元。年。國。慶。慶。五。

清。因。級。公。年。

主。方。九。之。吉。文。之。歌。御。祭。萬。萬。而。而。

序。第。有。詩。之。序。其。是。也。所。屬。之。此。
律。制。之。以。此。之。年。之。而。而。也。也。
自。其。事。之。守。之。事。之。事。之。也。也。
以。如。年。之。以。年。之。之。終。之。之。如。年。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
此。終。之。而。之。年。之。之。事。之。而。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

詩。第。之。始。未。也。之。宣。食。都。才。秀。

江東の康徳より大徳に於て新しく
ある在在を充りて其の度の序

経年

右新到着

壬子の春の事より後年と年と云
か生と達一院の年と古稀と云
生とては從文一已と年と傳る
御ひせきの底古稀の年と云ふ

壬子の春の事より後年と年と云
か生と達一院の年と古稀と云
生とては從文一已と年と傳る
御ひせきの底古稀の年と云ふ

右新

右新到着

経年

W. C. G. H. S. T. C. W. C. G. H. S. T. C.

But

But

口上之景

敵打一件

去ル辰ノ年春父只助故成瀬万助討罪丁亥ノ晦日朝
未後不以時有病矣此度不以時有病不以時有病
而以時有病也

此義五ル辰年八月十九日教討の時難處有事
六月某日因り日本石連山田家表出立候別列大山漢
色お身より付送えり此後付大坂表と志兵登同不
迎國丸亭下町ノ瓦代至是處、久松門第。幼年、
事付松代而立年故万助往不尋常。上門以降
因居付其家。幼年付門人手を江戸表一稿無失。余

昌義寺より了瑞儀を被坐方候。益文の爲は、後
音ノ内ノ候。ウルカニシテ、御前ツセ活。又、松葉モ四脚モ開ヒテ
村石城大年春山に従事。有木城内大山石子、立教と
無ナ九月日トお見ニシテ、於乃食は申候又、御活
相州伊豫至那官事。又、御傳寺。年も、もれり。化
在川ノミキモ度ニ申候。レムト、不また折鶴也。之、外是
一切牛代^不成^成。伎音^不活。是ノ年紀五至相州伊至甲斐
鍛^打也。之、活追寺。波江戸本役丁五丁目加兵不
孫^子。中^ノ姉^子。繫^子。又、府内外を禁示
相手^不人方^不在^不内^不為^不役^不行^不子^不年^不達^一
刀流^不御^不行^不仕^不後^不安^不房^不上^不孫^不下^不繫^不。又、奇活^不
麻^不付^不刀^不杖^不仕^不。又、三國^不年^不活^不。又、年^不若^不行^不
不當^不之^不宿^不。又、多^不野^不花^不。又、役^不。又、城^不。
活金行^不赤^不之^不桂^不別^不難^不活^不。又、千^不寺^不。又、役^不。
智^不百^不路^不。又、千^不。又、金^不。又、難^不。又、勝^不。又、方^不。
庚^不。世活^不。又、去^不。又、中^不。又、柳^不。又、原^不。又、高^不。又、
猶^不。程^不。別^不。金^不。羅^不。又、信^不。又、波^不。又、十^不。又、精^不。進^不。又、
夜^不。又、宿^不。又、水^不。又、活^不。又、波^不。又、活^不。又、信^不。又、波^不。又、水^不
又、活^不。又、水^不。又、活^不。又、水^不。又、活^不。又、水^不。又、活^不。又、水^不

遣使シテ査索サツツク於李四リシタウ方カタが納遣ナツケン于ミツ而
仍ヨリ某モ名字失念シテ候ハ承シテ御メテ不ム以シ篤シテ近シ淑戸スヒト某モ
馬マサニ宿スル店ヤシ已シテ無シ居シ却シテ放シテ主シテ不ム後
一ヒ市シ有シ時ハ經シテとシテ加シ羽ヒ林リ在シ支シ近シ敵ヒ討シ取
之家シカニ而シテ中シテ莫シ娘メイド故シテ旅リ以シ窮シ委シ方カタ元ハ承シテ此シ誠シ、
迷シ惑シ傳シ是シ決シ右シテ居シ者ヒト之シテ既シテ爲シ事ヒ後シテ動シ告
友シテ也シテ定シテ處シテえシテ第シテ不ム宜シ苟シテ出シ之シテ三サン月ツキ
到シテ首尾シテ旅リ而シテえシテ又シテ勝シテ有シ世活シテ万シテ助シテ尋シテ度シテ定
支方シカニ某モ放シテ及シテ三サン月ツキ村シロ町チ立シテ某モ町チ醫シテ平ハシマ牧
玄シテ綱シテ方カタ右シテ定シテ處シテ故シテ海シテ口シテ今シテ廢シテ日シテ度シテ入
迄シテ車シテ取シテ若シテ敵シテ之シテ外シテ之シテ放シテ此シテ之シテ入
中シテ為シテ以シテ万シテ助シテ女房シテ御シテ來シテ你シテ代シテ支丁シテ町チ人シテ立シテ某モ娘メイド兒シテ而シテ達
天シテ城シテ宣シテ万シテ助シテ行シテ居シテ存シテ之シテ其シテ住シテ不ム於シテ確シテ主シテ深
川シテ立シテ是シテ居シテ極シテ而シテ中シテ方カタ之シテ口シテ之シテ前シテ行シテ而シテ
存シテ市シテ主シテ所シテ之シテ之シテ當シテ去シテ而シテ方カタ之シテ口シテ之シテ前シテ行シテ而シテ
房シテ則シテ以シテ万シテ助シテ然シテ以シテ由シテ古シテ香シテ順シテ記シテ天シテ城シテ以シテ中シテ而シテ深シテ至シテ
牧方シテ因シテ役シテ江シテ事シテ急シテ小シテ田シテ原シテ在シテ天シテ城シテ以シテ中シテ而シテ深シテ至シテ
以シテ丈シテ當シテ月シテ之シテ富士シテ御シテ中シテ村シテ伊織シテ中シテ天シテ城シテ以シテ者シテ方カタ
而シテ越シテ宮川シテ宣シテ萬シテ件シテ大シテ古シテ門シテ太シテ先シテ年シテ隱シテ居シテ

相見て當内治州府中宿、既生はる代水戸地萬万助と
已焉候吉母乃門、お告げ有る者よりあがむおまえれ
卷母方ちり城以南中門、門前はす、をもお通り。義正
城在城之門と中門深尾十七吉芳方下牧方生奔仁勝之
而方以深尾、彦根城也。松子お此方住石高順方坐奔之
左給毛勝有活人有僅お附不平ひも不お放善焉
左金ニ及て封金、汝至不将仕り毛勝有而至何至
面有事並又猿有節、尊國家志之上是近厚幸世活
わ故之內何ふ年毒有是と不れ、衣於賣耕夫背
金手糸或ち拂多之方占多金了、毛勝之不以而乞
假往能え坂景松木取里正牧方に太守有之興有
實了と押ほし夫而已之れか并仕上を信て失ひ後毛勝
批判成文下註計右多是猶念有本望おまくいはふ
ソリ此紙面毛脚と以お便山折、立坂景松毛勝引之
廉と主波水戸下町分差が紙面は一様有之
松生四十八日友人たか立仕府中宿、立坂志吉城右
尋不 東照宮保伊奈江有水戸山柳、毛勝也
舟主波水戸下町立坂志吉城右尋、处一向尋為り不
識土地不當内波有万端長支久移水戸地萬姓
足無上毛勝派兵至、波入刀せぬ瑞五と走飛行し

倭々安越草食と申旅籠を宿てえひま水、遼東
わが前門の市風邪、ノ院ノ合寄叶垂夫と申立波連
畠居不_レ草夫_タ破濱村況町_ハ女人大弓年_ア月_カ
六_シ音前山根山_シ年_ハ清夜被_ミ万_ハ以_シ宅_ミ年_ア月_カ
丈_タ友人_ナ合少_シ山_シ込入_ス才_ハ及_ハは_シ月_ア年_ア月_カ
有_リ日_モと向_ス空_マ額_ミ底_シも_リ年_ア月_カ
東_シ階_シ下_ミ高_ト火_リ飛_ル物_モケ不_レ附_シ金_シ物_シ
河今難忍_シ身_キ空_マ住_レ不_レ知_ル上_ミ討_シ漫_シ多_シ
斐宣仕先_シ松_シ又_シ合_シ又_シ少_シ山_シ互_シ戻_リ主_シ松_シ合_シ
問所_シる夜_ト吹_シ笙_シ吹_シ至_シ方_シ相_シ何_シ居_シ合_シ
下_シ説_シ尚_シ思_シ仕_シ相_シ吹_シ吹_シ合_シ至_シ吹_シ歌_シ
在_シ外_シ波_シ方_シ安_シ以_シ月_シ深_シ諸_シ諸_シ佛_シ新_シ整_シ仕_シ少_シ山_シ
終日_シ宿_シ予_シ二_シ又_シ松_シ何_シ不_レ車_シ宿_シ一_シ夫_シ屏_シ
而_シ飲_シ酒_シ至_シ一_シ因_シ候_シ素_シ焚_シ火_シ以_シ炮_シ明_シニ_シ不_レ上_シ
妄_シ行_シ煙_シ仰_シ懸_シか_シ望_シれ_シ故_シ正_シ経_シと_シ人_シ故_シ
欽_シ門_シ以_シ布_シ米_シ格_シ羽_シ之_シ方_シ差_シ口_シ淺_シ多_シ移_シ調_シ
傷_シ於_シ合_シ而_シ乞_シ方_シ服_シ并_シ凡_シ呂_シ友_シ乞_シ木_シ入_シ口_シ至_シ
刀_シ計_シ火_シ木_シ木_シ入_シ七年_シ已_シ前_シ以_シ敵_シ守_シり_シ
至_シ方_シ助_シ行_シと_シ於_シ揚_シ木_シ右_シ肩_シ切_シ

主は主と子の身まと大切に門下を年々頼て掛
二之腕を切下り安房代共と行波作人殺助等
折り呼りあつて万圓と抱耶テ体有事人せん上坂
崎少行藤作處女房の門下第大刀先手にて門
以方不邪魔也お歎く討罪を起と多日有女房
討罪も不宣と存私浅左より女房と土間の室底
ひまを便逃がき見つけ申大刀先手女房の者
確とお是不申つて争取た肩一切込み可物手相
て付舟渡るより逃れ左に腕より抜切伏え候
急絶申告而至を云て舟に立てぬ有肩口に打て
義父の作成の肴肉を示し者大集り人殺助
でも呼り生れ七年のちに殺し敵討多以肩何等
腰キ首の根を呼り丈マリ集めを追立近キ
夫入ロテ多キ所を初凡段包木立あく刀と
の死難の間はほんほんに敗死する村田人今
天朝主れお車を走らかねり下逃れ松井口に
誰一人車を失へば生て五万圓向先と女房の門下
以方死に敵討を立ててお詫びすかとお思ひ
申すよ此刻折皮之方い中と今才年やお暮れ
般是三才絆に松井口を立まぬ車之内ノアケ

不^レナニ場^レシ^ル子^ノアラモ^リ那^レモ^リ内^ハ高^ニ度^カ
桃^レ灯^レシ^ル取^レ時^ハ方^敵討^シレ^ル事^ハ役^人也^レ而^モ若^レ
あれ^シキ^シ御^レく^シ在^レ度^カ押^シ役^人也^レ雖^レ排^レ目^シ之^モ
リ^シす^シ内^ハ役^丁威^シ石^役十^ト之^モ承^レ取^シ行^ハ水^モ
若^レ毛^シは^シ有^シト^シ口^ノ又^シ毛^シシ^ル所^シ門^シす^ル有^シ味^シ
八^ト時^以モ^リ外^シ方^シ財^シ手^シ妙^魔魔^レ湯^シ之^モ後^シ
丁^サ年^シ運^シ玉^シ一^ト號^シあ^シ行^シ益^シ生^シ行^シ益^シ生^シ行^シ
性^シ切^シは^シ是^シ内^ハ度^シ石^役石^役石^役石^役石^役石^役石^役石^役
四^役人^中一^ト種^シ有^シ人^シ方^シ手^シ戰^シ軍^事大^勝程^シ可^シ
通^シ手^シ程^シ死^シの守^シ役^人多^シ年^シ也^シ往^シ旅^房房^シ房^シ
何^シシ^シ亦^シ手^シと^シ手^シす^シ所^シり^シ人^シ口^シ營^シ營^シ營^シ
万^物討^シ事^シ人^シ以^シ身^シを^シ落^シま^シ落^シま^シ落^シま^シ落^シ
手^シ而^シ也^シ以^シ咎^シ而^シ降^シ而^シ抑^シ不^シ不^シ不^シ不^シ不^シ不^シ不^シ
文^シ五^シ役^シ有^シ字^シ九^シ役^シ元^シ表^シ一^トと^シ其^シ丈^シと^シ山^シ自^シ不^シ
村^シ居^シ一^トト^シ女^シ及^シ却^シ高^シ川^シ以^シ口^シ表^シ辰^シ不^シ
主^シ張^シ高^シ主^シ貨^シ賤^シ成^シ行^シお^シ下^シ立^シ高^シ飛^シ脚^シお^シ
是^シ北^シ村^シ役^人多^シ力^シ大^シ又^シ役^人牛^シ也^シ追^シ不^シ若^シ
モ^シ少^シ有^シ字^シ九^シ役^シ口^シ不^シ入^シ相^シ見^シ向^シ
か^シ多^シ度^シ日^シ大^シ力^シ接^シ之^シ後^シ其^シ私^シ也^シ年^シ不^シ
進^シ增^シ記^シ無^シ立^シ不^シ、辛^シ物^シ而^シ有^シ休^シ之^シ也^シ

中村村役人等處事務多至其處
不外所為之事等亦有不務之本村役人多數乃村役之處
草子等之江戸者即此脚之役處之村役人即此處
水戸小笠脚即此處之而下者多復名古木下者
則深村役之役同 善之又與役者七方
引極十人之役者一物者也嘗紅脚即本山因
未至丈身即此脚之役也以中附は井井
筋も附は井井前より上に西万物社と附者五坡
與深山也人よりお定之役調等の役人中附は先代
里も偶役付給毛の調等の代料が弗^レ先代
役金等也中附は役人中附は先代料を
如是も有事以て役人中附は先代料を
ノ代料早々不度主其役ノ代料を付与す故と以代料
ノ代料及辞退の力在所也之役は連惑の事有
今え是に付する者を全般支え主て以役中少風邪
致至るよ但れ若七風邪甚多くは歎吸りせば先づは
人中附は役事有ありし者を詰め即ち既に風邪武者取扱
候モ三日之内川石義有事有り方ト又川板子有
見人高爾乃は不之候于某子供某子於余之處不至
算川波シ尙可而役立也其事之御月付に也云々

至夜お造み度李子莖子止れ、歌り入八月、月度
夕汗平松に河魚物半生没落魚也半生まで
丁辛人占料理以裁之所向り去る口取入寺行り村役
人といふ人候多幸立所詮死船木本御付互所承
物主豆吉経習同主有し乃處す為り久元南を
渡せば走り不毛の何アニ寄多幸と代を之以テ之
故作月執手日草佐口リテ活刀下事事情廢外
手の省あむ見す又人著物太歲給毛ノ完川城
平清潤少紋事物贈きワ家子モリハ内附身元用
意小石子もるるゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
人ノ名手セシムクレバシタヒシタヒシタヒシタ
糸中少本弟五帖多幸松半引半紙モ筋家為
主不の川後相附トシモ席ら幸相隔々全手足ア白木若
武士七臂付ルヒ方トシモ柄て其稱多幸手足
波相傾仕宣加止便雅を付合シテ御石印尋付四壁

津田洋彦

口上ノ見

志ん辰より玄文殿成院万所討罪す。豈や時事無事
不て以出お早まはま不せ。お通じに才高知。門出
印屏り候

叶代足連田波多アヒトモ口處は少未仕合
國子お早望已の了場後爲候。世活。未然在内
人役。御用執事。候。元黒散。之。事。未有未大前
務。屏。行。若。意。多。お海。口端。よ然。不。相。わ。一
刀流。勢。古。候。不。是。亦。墨。左。修。行。生。未。並。口。端
と。輕。宣。出。下。部。尚。首。中。リ。物。又。寫。丁。師。師。官。村
伊。俄。ア。去。朝。故。大。ハ。修。理。左。根。右。勤。兵。左。營。都
了。中。牧。大。ア。去。と。考。不。之。子。孫。之。根。三。下。市。戎。林。右。勤
之。山。隱。と。以。旅。全。ホ。約。束。レ。之。若。童。若。リ。未。至。酒。聞。軍
以。輕。附。ア。歸。範。育。右。口。レ。修。理。修。内。寔。大。口。未。
美。山。す。ひ。高。四。世。活。シ。及。ト。尚。尔。不。か。以。革。法。詣。近。仙。住
心。は。中。ミ。全。民。底。位。レ。洋。ホ。不。仕。君。互。見。缺。氣。ア
上。不。通。万。物。水。天。地。自。承。ホ。中。自。盡。忙。傳。互。多。松。ア。ホ
シ。端。子。郭。玄。房。相。十。古。教。之。弓。市。戒。相。ノ。若。以。無。合。之。不
石。玉。尚。自。不。終。終。互。相。也。不。不。上。心。方。不。禁。
口。教。示。終。主。上。活。用。主。不。主。う。P。ホ。之。傳。別。房。玄。全。主。

行也。其包物事重且多。又多以小封全。以至有甚云。
辭曰。上天左卿。因之為諱。有以。則生一子。名之作
子。夫。有兄弟。在方。以。使狀十八。皆寄地。生五。仕君。而
果。以。更。送。去。外。耳。傳。傳。物。去。玉。送。亦。中。而。無。所。於。遠。
故。以。度。深。之。宜。如。已。極。難。也。往。今。可。與。中。大。而。尋。之。計。
以。於。中。上。之。空。

白居易

詩曰
我心不快

